



横浜市立一本松小学校

3月号

# 学校だより

令和6年2月29日  
横浜市立一本松小学校  
校長 高桑 透

## キャッチボールの極意

校長 高桑 透

桃の節句を前にして木々の芽も膨らみ始め、本格的な春を感じる季節となってきました。月日が経つのは早いもので、あと1か月ほどで令和5年度の終了を迎えます。学校では、6年生の卒業とそれぞれの学年の進級に向けた取り組みが始まっています。

昨年から話題になっていた「大谷翔平選手から小学生へ贈られるグローブ」、本校にも届きました。届く前から、「いつ届くのか。」「まだ、届かないのか。」と子どもたちから良く声をかけられました。よほど楽しみにしていたのだなと感じました。

2月初旬に本校にも届いたので、早速朝会で贈呈式をしました。大谷選手からのメッセージを紹介し、デモンストレーションで6年生にキャッチボールをしてもらいました。大いに盛り上がりました。翌日から、学級ごとに1日ずつ交代で使えるようにしました。学級により取り組み方は様々ですが、大谷選手の気持ちに触れ、きっと楽しい時間を過ごしたに違いありません。

私は野球というスポーツが大好きです。20年以上前から地域の少年野球にコーチとして携わり、現在は監督としてチームを率っています。その野球の基本となるものの一つがキャッチボールです。このキャッチボールがある程度できるようにならないと、野球というスポーツは成立しません。そのため、少年野球でも、プロ野球でも、キャッチボールを大切に、たくさん時間を費やします。

ボールの投げ方やグローブの使い方など、基本的な技術はもちろん大切ですが、私が選手たちにキャッチボールを教えるときは、「相手の捕りやすいところを狙って、しっかり投げる。」「投げられたボールは、はじいたりしないように、正面に入ってしっかり大切に捕る。」ように声をかけています。キャッチボールは、お互いに相手の気持ちになって、一球一球ていねいに投げたり捕ったりすることが極意だと思っています。その極意を意識できる選手は、キャッチボールがどんどん上手になっていきます。キャッチボールが上手になると、その相手も自然に上手になっていきます。相乗効果です。キャッチボールが上手な選手が増えれば、自然にチーム力も上がっていきます。相手の気持ちになって考えることができる選手ばかりなので、自然に励まし合ったり褒め合ったりするようになります。そして、みんなが楽しんで野球をすることができます。

このキャッチボールの極意は人間関係でも同じです。相手の気持ちになり、自分の思っていることを丁寧に相手に伝える。伝えられたら、その気持ちをしっかり受け止め、自分の気持ちを返す。このキャッチボールを繰り返すことで、良い関係性を築くことができます。本校の子どもたちにも、キャッチボールの極意を身につけてほしいと思います。

最後になりましたが、この一年間、保護者、地域の皆様には、本校の教育にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。次年度も引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。